

# 連体修飾語(節)における「的」と「た」について

張 金艶\*

## On 'DE' and 'TA' in Adnominal Phrases

ZHANG Jin-yan\*

キーワード：連体修飾語(節), 動詞, 的, た

Key Words : adnominal phrase, verb, *de*, *ta*

### 1 はじめに

日本人の中国語学習者には習得過程において、「我请小王来我的家」のような「的」の誤用が見られる。一方では、中国人の日本語学習者に「新しいの本を買いました」のような誤用がよく見られる。その故に、「的」と「の」の比較が時々取り上げられている。そしてこうした比較研究によって、「的」と「の」類似点と相違点が徐々に明らかになってきている。しかし、両国語においてともに名詞、形容詞(形容動詞)、動詞などが連体修飾語(節)となれるという共通点があるが、「的」と「の」の比較ではあくまでも連体修飾語(節)が名詞である場合にとどまっているしか言いようがない。中には連体修飾語(節)が動詞(動詞フレーズ)である場合の比較はこれまであまり取り上げられなかった。そこで、本論文においては、連体修飾語(節)が動詞(動詞フレーズ)である場合を取り上げて、連体修飾語(節)に現れる「的」と「た」の意味・用法を比較し、両者の類似点と相違点を明らかにしていくことにした。

### 2 連体修飾語(節)における「た」

連体修飾語(節)の場合は、ル形とタ形のどれかを取るのかが動詞の種類でかなり決まってくるとされている。動詞の分類に関しては、研究者によって意見が多少異なっているが、本稿では、寺村(1992)の分け方に従うことにする。寺村(1992)では、まず動詞を(うごきを表す)動的動詞と(さまを表す)様態動詞と大きく分けている。さらに、動的動詞には瞬間動詞と継続動詞があり、様態動詞には甲類(イル, アル, 要ル, など)、乙類(性状お規定を表スグレテイル, パカゲテイル, など)、丙類(関係概念を表ス異ナル, 匹敵スル, など)があるというふうに動詞を分類している。ここでは動詞(動詞フレーズ)が名詞の連体修飾語(節)となる時、「動的動詞 + タ + 名詞」の意味とテンス・アスペクトから解放される「た」に分けて検討していく。

---

\* 国際交流センター講師

## 2.1 動的動詞 + 「た」の意味

- (1) 明日, 来日する研究者が若い。  
 (2) 昨日, 来日した研究者が若かった。

上の例文を見て分るように, 動的動詞のル形は, (1)のように現在, あるいは未来のことを表し, タ形は過去の事実を表すと言えるだろう。

次の文を見られたい。

- (3) 来週中国へ行くとき, 王さんに電話をしよう。  
 (4) 来週中国へ行ったとき, 王さんに電話をしよう。  
 (5) 先週中国へ行くとき, 王さんに電話をした。  
 (6) 先週中国へ行ったとき, 王さんに電話をした。

上の考えにしたがえば, (4)と(5)は非文といわざるを得ない。しかし, (4)については, 来週のことにもかかわらず, 「行く」のタ形を用いたのは確かに将来のことであるが, 王さんに電話をするのは中国に着いてから, おこなわれる行為だからである。すなわち, 仮に中国に行くという行為が実現してから, 王さんに電話をするという意味である。(5)については, 確かに過去のことであるが, 王さんに電話をしたのは中国に行く前におこなわれた行為である。すなわち, 中国に行くという行為が実現する前に, 王さんに電話をしたという意味である。

こうして見れば, 日本語では, 従属節のテンスは主節のテンスとどのような関係かという点においては, 連体修飾語(節)で表されている出来事は主節で表されている出来事より先に起きた場合, 連体修飾語(節)にタ形が用いられる。逆に, 連体修飾語(節)で表されている出来事は主節で表されている出来事の後に起きた場合, 連体修飾語(節)にル形が用いられるのが普通である。

ところが, 中国語の場合, よく「た」の比較対象とされている「了」ではなく, 「的」を伴うのがふつうである。例えば,

- (7) 学生が買った。      学生买了。  
 (8) 買った学生      ×买了学生 (○买的學生)

上の例を見て分るように, (7)の「た」に中国語の「了」が対応しているのに対して, (8)の連体修飾語における「た」に当たるのが「了」ではなく, 「的」であることが言うまでもない。言い換えれば, 日本語では連体修飾語(節)に「た」が現れたとしても, 中国語では, 動詞の後に「了」をつけるだけで連体修飾語(節)として名詞を修飾できないことが明らかである。

もちろん, 「動的動詞 + タ + 名詞」に対応するのが単なる「動詞 + 的 + 名詞」だけではない。これについて, 張(1985), 張(2000)などで指摘されたように, 「動詞 + 的 + 名詞」のほかに, 「動詞 + 了的 + 名詞」の形もある。この点については, 特に異義がないようであるが, しかし, 張(1985)の中では, 日本語の「た」に中国語の「結果補語 + 的」, 「趨向補語 + 的」が対応するケースもあるという考えを示している。挙げられたのが次の例である。

- (9) いったん堅く括られた私の行李はいつの間にか解かれてしまった。

我原来打好的行李也不知不觉地全解开了。

張(1985: 83)

張(1985)の考えによれば, 日本語の「た」だけで, 中国語の動詞の補足成分の意味まで持つことができると言ってもいいだろう。しかし, (9)を見て分るように, 「打好」があくまでも「堅く括られる」に相当している。したがって, ここでは張(1985)のとえら方には首肯しがたい。

日本語の「動詞+的+名詞」に対応するのが「動詞+的+名詞」のほかに、「動詞+了+的+名詞」があると述べたが、それでは、次の二つの文はどういう違いがあるのかを見ていこう。

- (10) 飲んだ薬が効く?            吃的药起作用吗?  
 (11) 飲んだ薬が効く?            吃了的药起作用吗?

張(2000)によれば、(11)は(10)と比較したら、「飲む」という動作が実行したかどうかという修飾語の動的な局面の展開有無にある。そして二つの局面を視野に入れて、焦点を転換や展開に当てている。この場合、「動詞+了+的+名詞」のほうが適切である。逆に、(10)はこういう意味合いがとらえられない。

## 2.2 テンス・アスペクトから解放される「た」

寺村(1992)によれば、性状規定を表す乙類の様態動詞は、連体修飾語(節)の位置に入ると、タ形を取るのがふつうである。例えば、

- (12) 優れた作品                    优秀的作品  
 (13) あっさりした味                清淡的味道

この類の様態動詞のほかに、瞬間動詞の中にも変化の結果を表すのではなく、「単なる状態」を表すものがあると考えられる。これらの動詞(動詞フレーズ)はタ形で名詞の連体修飾語(節)となる場合、本来の働きを失い、形容詞にも相当するような状態を表現している。例えば、

- (14) 曲がった道路                  弯曲的道路  
 (15) 似た顔                          相似的面孔  
 (16) 着物を着た人                  穿着和服的人

これらの「た」はいずれもテンスを担わない。その上に、何の変化も見られないので、アスペクトとも関わらない。すなわち、この場合の「た」はテンスからもアスペクトからも解放され、形容詞的な表現になると考えられる。

しかし、寺村(1992)では、これらの動詞は連体修飾語(節)の位置に入ると、タ形を取るのがふつうであると認めた一方、たとえ、連体修飾語(節)であっても、主格語が前に(あるいは文外に)ある場合はタ形を取れないと主張している。例えば、

- (17) \*この作品の優れたところは...      この作品の優れているところは...  
 (18) \*あの人の着た着物は...              あの人の着ている着物は...

さらに、寺村(1992)では、関係概念を表す丙類の様態動詞がル形またはタ形で名詞を修飾できるのに対して、金水(2000)によれば、この類の動詞もいったん連体修飾語(節)の位置に入ると、ル形よりタ形を取ったほうが落ち着くと意見が分かれている点も見られる。

すでに述べられたように、この場合の動詞は本来の動詞としての性格が消え、単に名詞の状態や属性を示すだけの形容詞的な表現である。興味深いことに、この場合の中国語では、「优秀的、清淡的...」のように、一部はもうすでに形容詞で対応しているという実例も見られる。そしてこの場合、単に状態や属性を示すだけなので、動作が実行したかどうかには焦点を当てないことで、「動詞+了+的+名詞」より「動詞+的+名詞」のほうが適切であろう。

## 3 「動詞+的+名詞」について

「的」は中国語で多く用いられる字で、その使用頻度が5%を超えているのではないかといわれ

ている。中国語の学習過程において、よく取り上げられるのが日本語の「の」との比較であろう。こうした「の」と「的」との比較研究により、両者の類似点と相違点が徐々に明らかになってきた。でも、これはただ「的」の用法の一つに過ぎない。たとえ、連体修飾語(節)の場合に限って見ても、「名詞+的+名詞」、「動詞+的+名詞」、「形容詞+的+名詞」、「副詞+的+名詞」、などのいくつかのパターンがある。本論文では、動詞の場合に限って、その意味・用法を明らかにしていくことにした。

中国語では、動詞(動詞フレーズ)は連体修飾語(節)として、名詞を修飾する場合、その印として、動詞(動詞フレーズ)の後に「的」を付けるのがふつうである。例えば、

- |      |       |         |   |          |
|------|-------|---------|---|----------|
| (19) | 我买的书  | 私の買う本   | / | 私の買った本   |
| (20) | 来的人   | 来る人     | / | 来た人      |
| (21) | 看书的时间 | 本を読む時間  | / | 本を読んだ時間  |
| (22) | 买票的钱  | 切符を買うお金 | / | 切符を買ったお金 |

(19)~(22)を見れば、行為の対象を表すもの(19)、行為の主体を表すもの(20)、行為を行うための条件を表すもの(21)、行為の道具・手段を表すもの(22)である。これらはいずれも動詞(動詞フレーズ)が名詞を修飾する例である。もし、動詞(動詞フレーズ)の後に「的」を付けないと、構造的にも意味的にも変化が生じるとされている。確かに、(19)と(20)を例にして、「的」を取ったら、

- |       |     |               |
|-------|-----|---------------|
| (19)' | 我买书 | 私は本を買う。       |
| (20)' | 来人  | 人が来る。 / 誰か来て。 |

となる。先ず、構造から言えば、動詞(動詞フレーズ)が連体修飾語(節)として名詞を修飾するのではなく、述語に変わっていくのである。もちろん意味的にも、もともと(19)の「私の買う本/私の買った本」、(20)の「来る人/来た人」から(19)'の「私は本を買う」、(20)'の「人が来る。/誰か来て。」に変化していくわけである。こうして見れば、動詞(動詞フレーズ)が名詞の連体修飾語(節)であるか、述語であるかは構造助詞「的」により、大きく決められている。

次は(21)(22)の二つの例から、「的」を取ったら、構造的、意味的に変化が見られるのか、検証していきたい。

- |       |      |
|-------|------|
| (21)' | 看书时间 |
| (22)' | 买票钱  |

(21)'と(22)'は(21)(22)と比べれば、確かに助詞「的」がないので、構造的には異なってきたように見える。上の考えにしたがえば、「看书」「买票」は「时间」「钱」の連体修飾節ではなくなるはずであるが、しかし、「看书」「买票」の後に助詞「的」がなくても、(21)(22)と変わらずに「时间」と「钱」の連体修飾節であると認めざるを得ない。これについて、興水(1985)では、動賓連語<sup>(1)</sup>の場合、動詞や名詞にそれぞれ補足成分や修飾成分がついていないものは緊密に一体化していて、そのまま名詞の連体修飾節になれる場合が多い。逆に、動詞や名詞にそれぞれ補足成分や修飾成分がついているものは助詞「的」がなければ、連体修飾節にならないと指摘されている。例えば、

- |       |        |
|-------|--------|
| (21)" | 看完书的时间 |
| (22)" | 买两张票的钱 |

(21)"(22)"を「看(動詞)+完(補足成分)+书(賓語)」「买(動詞)+两张(名詞の修飾成分)+票(賓語)」のように分析すれば、それぞれ動詞の補足成分と名詞の修飾成分が現れている。このような動賓連語が連体修飾節として名詞を修飾するとき、「的」が必須となる。

助詞「的」がつかずに、名詞の連体修飾語(節)となれる動詞(動詞フレーズ)は「動詞+的+名詞」の形ではないので、ここではこれ以上ふれない。

### 3.1 「動詞+的+名詞」の意味

すでに述べられたように、動詞(動詞フレーズ)は名詞の連体修飾語(節)となるのに、ほとんどの場合、助詞「的」が必須である。とはいえ、「動詞+的+名詞」の形は必ずしも日本語の「動詞+タ+名詞」に等しくないのである。なぜかといえば、(19)~(22)の例文に示されたように、「動詞+的+名詞」は過去にも、非過去にも両方の意味が読み取れるからである。すなわち、「動詞+的+名詞」の形は日本語の「動詞+ル+名詞」と「動詞+タ+名詞」の両方に対応しているわけである。この点については、張(2000)では、「動詞+的+名詞」という形は過去、非過去を問わず、一般的に単なる被修飾語の属性、性質を指示する連体修飾語として使われていると指摘している。

- (23) 昨天穿的衣服洗了没有?            昨日着た服は洗いましたか。  
 (24) 今天穿的衣服准备好了没有?      今日着る服は準備しておきましたか。  
 (25) 明天穿的衣服别忘了带上。        明日着る服を持っていくのを忘れないでください。

張(2000:367)

(23)~(25)のいずれの文中にも「穿的衣服」という「動詞+的+名詞」の形があるが、しかし、(23)は過去で、日本語の「動詞+タ+名詞」に対応している。これに対して、(24)(25)の二つの文は明らかに(23)と異なっていることが分ってくる。つまり、(24)(25)の二つの文は日本語の「動詞+タ+名詞」に相当するのではなく、「動詞+ル+名詞」に対応している。もちろん、単なる「穿的衣服」という連語だけでは、過去、あるいは非過去の両方の意味が読み取れるが、具体的な状況や文脈によって判断する部分が大きいと言えよう。「動詞+的+名詞」が過去、あるいは非過去のどちらを読み取るかについては、張(2000)、楊(1997)の中では、見解が分かれているが、しかし、実際の文脈に委ねる面があるという点では共通している。

### 3.2 連体修飾語(節)になれない場合

これまで中国語の「動詞+的+名詞」の意味などについて検討してきた。発話の状況や前後の文脈によって、過去、或いは非過去なのかは大きく分かれているということが明らかになった。しかし、「動詞+的+名詞」という形で現れたとしても、名詞の連体修飾語(節)になれない場合のことにについては、あまり取り上げられなかった。例えば、

- (26) a: 你什么时候买的车?            君はいつ車を買ったのですか。  
       b: 我昨天买的车。                私は昨日車を買ったのです。  
 (27) 我去年在大学学的汉语。        私は去年大学で中国語を学んだのです。  
 (28) 你怎么过的这个假期?        君はこの休みをどう過ごしたのですか。

(26)~(28)の文は外見上これまで挙げた例文と変わりが見られない。ところが、(26)を例に見ると、「买的车」は動詞が名詞の連体修飾語になる時の形を取っていても、「私昨日買った車です」の意味ではない。これについて、瀬戸口(2003)では、中国語では、すでに行われた動作について、その動作がどのようにして行われていたのか、行われた時間・場所・方法などを特に強調する場面に使う。そして、動詞が目的語を伴っているとき、「的」は目的語の前、動詞の後につけられると説明している。瀬戸口(2003)に基づいて、(26)を分析すれば、車を買ったのがすでに事実で、車を買ったという動作はいつ行われたのかを強調しているので、助詞「的」があっても、「买」は「车」の

連体修飾語となれない。つまり、この場合の「买的車」は動詞が名詞の連体修飾語の形を取っているというふうに見えるが、名詞の連体修飾語ではなく、述語であることが明らかになった。

#### 4 まとめ

本論文においては、「的」と「た」の類似点と相違点を動詞(動詞フレーズ)が名詞の連体修飾語(節)になる場合に限定して分析を行った。日本語の「た」と中国語の「的」と対応する場面があることが分かった一方、中国語の「的」の表現領域は日本語の「た」より広いということも明らかに示した。

日本語の「た」と中国語の「的」の用法をめぐって、下の表にまとめた。動詞に付く場合の「的」と「た」との用法についての対照研究は管見の及ぶかぎり、これまであまりされていないようである。したがって、まだ多くの課題が残されたままであると思われる。本論文では、いくつかの側面を明らかに出来たと思う。そして、この論文を通して、明らかにしたことは日本語あるいは中国語の教育に少しでも有用の材用になれるものと信じる。また、残された課題を今後の課題としたい。

た	的
参加した人に記念品を配る。	○给参加的人发纪念品。 ○给参加了的人发纪念品 ○给参加人员发纪念品
すぐれた作品を選びだす。	○选出优秀的作品。
×明日飲んだ風邪薬はどこに置いた？ (明日飲む風邪薬はどこに置いた？)	○明天吃的感冒药放在哪了？
×私昨日買った車だ。 (私は昨日車を買ったのだ。)	○我昨天买的车。

#### 注

(1) 動賓連語：動詞に対する賓語(目的語)はその動詞の後におく連語の一つのパターンである。動詞と賓語の結びつきを意味上から見ると、多種多様である。例えば、賓語が動作・行為の受け手を表すもの(吃饭)、賓語が動作・行為の動作主を表すもの(来客人)、賓語が動作・行為に用いる道具・手段を表すもの(洗冷水)、などがある。

#### 参考文献

- 金水敏 (2000)等 『時・否定と取り立て』岩波書店  
 瀬戸口律子 (2003) 『完全マスター 中国語の文法』株式会社 語研  
 張麟生 (1985) 「中日両語のアスペクト 「了」と「た」を中心に」『日本語学』3月号. 74-91.  
 張継英 (2000) 「日本語の「た」と中国語の「了」との相違」『日本と中国ことばの梯』359-370. くろしお出版.  
 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味』第二巻. くろしお出版.

- 與水優 (1985) 『中国語研究学習双書 8 中国語の語法の話』311-314. 光生館.  
楊凱榮 (1997) 「「V的N」における已然と非已然」『中国語語学論文集』東方書店

(2006年10月6日受付, 2006年10月13日受理)